

公益財団法人 日本文学振興会

平成 29 年度 事業 計画

当法人の本年度に企画する事業は、定款第 3 条の「文芸の向上顕揚を図る」を目的として、第 4 条に基づく下記五賞の選考と授賞を行う。

松本清張賞 第 24 回 (平成 29 年度) 平成 29 年 4 月中

人間性を透視し、社会の暗部を凝視して、名作を数多く生み出した故松本清張氏の業績を記念し、長編小説の分野での、優れた作品の執筆者を選出し、記念品及び賞金を贈る。

対象はジャンルを問わぬエンターテインメント小説。原稿枚数(400字換算)300枚から600枚まで。日本文学振興会による予備選考を経て、4月に選考委員会を開き、その結果は「オール讀物」6月号に発表される。正賞は時計、副賞は500万円。選考委員は、石田衣良、角田光代、中島京子、葉室麟、三浦しをんの各氏。7月中に贈呈式及び披露を行う。(※次回より毎年10月末を締め切りとし、またWEBからの投稿も受け付け、応募総数のさらなる拡大を図る)

大宅壮一メモリアル日本ノンフィクション大賞 第 48 回 (平成 29 年度)

平成 29 年 5 月中

故大宅壮一氏の言論活動を記念し、ノンフィクション界のさらなる振興を目的として、清新且つ創造的な作品を著した著者を選出し、賞金及び記念品を贈る。

対象は個人の署名作品とし、毎年1月1日より12月31日までに発行されたノンフィクション作品(ルポルタージュ、手記等、小説以外の作品)。雑誌やネット記事もそれに準じる。日本文学振興会による予備選考を経て4月に候補作を発表し、ネットによる読者投票を経て、5月に選考顧問会を開く。その結果は「文藝春秋」7月号に発表される。正賞は100万円、副賞はJAL国際線往復航空券。6月中

に贈呈式及び披露を行う。選考顧問は後藤正治氏。

(※本年より大宅壮一ノンフィクション賞から表題のように名称を改めた。それに伴い、これまでの新人賞という位置づけを改め、対象年のベストノンフィクションを選ぶこととし、また雑誌部門を全体に吸収することとした)

芥川龍之介賞 第157回 (平成29年度上半期) 平成29年7月中

第158回 (平成29年度下半期) 平成30年1月中

故芥川龍之介の文業を記念し、日本文学に新風を送る作品を著した有為の新人を選出し、記念品及び賞金を贈る。そして、直木三十五賞と共にその贈呈式及び披露を行う。

対象は雑誌に発表された純文学作品(原則として原稿枚数200枚前後以下の中短編)。12月1日～5月31日を上半期、6月1日～11月30日を下半期とする。日本文学振興会による予備選考を経て、7月及び翌年1月に選考委員会を開き、その結果は、「文藝春秋」9月号及び3月号に場を借りて発表される。正賞は時計、副賞は100万円。選考委員は、小川洋子、奥泉光、川上弘美、島田雅彦、高樹のぶ子、堀江敏幸、宮本輝、村上龍、山田詠美、吉田修一の各氏。

直木三十五賞 第157回 (平成29年度上半期) 平成29年7月中

第158回 (平成29年度下半期) 平成30年1月中

故直木三十五の文業を記念し、日本の大衆文芸に新生面をひらく有望な新人を選出し、記念品及び賞金を贈る。そして、芥川龍之介賞と共にその贈呈式及び披露を行う。

対象は12月1日～5月31日(上半期)及び6月1日～11月30日(下半期)に刊行された大衆文芸作品。日本文学振興会による予備選考を経て、7月及び翌

年1月に選考委員会を開き、その結果は「オール讀物」9月号及び3月号に場を借りて発表される。正賞は時計、副賞は100万円。選考委員は、浅田次郎、伊集院静、北方謙三、桐野夏生、高村薫、林真理子、東野圭吾、宮城谷昌光、宮部みゆきの各氏。

\*芥川賞・直木賞における「人生に、文学を」キャンペーン

平成28年度に引き続き、芥川賞と直木賞において、新聞雑誌各紙に「人生に、文学を」キャンペーンを展開し、また受賞作家によるティーチインを全国各地の大学で開催して、文学の振興を図る。企業から協賛金を募り、上記キャンペーンを執り行う。

菊池 寛 賞 第65回 (平成29年度)

平成29年10月中

故菊池寛の日本文化の各方面に遺した功績を記念し、同氏が生前関係の深かった、文学、映画・演劇、新聞、放送、出版（雑誌を含む）及び広く文化活動一般に於いて、清新且つ創造的業績をあげた人、或いは団体を選出し、記念品及び賞金を贈る。そして、その贈呈式及び披露を行う。

日本文学振興会による予備選考を経て、10月に選考顧問会を開き、その結果は「文藝春秋」12月号に場を借りて発表される。正賞は時計、副賞は100万円。選考顧問は東海林さだお、平岩弓枝、保阪正康、養老孟司の各氏。